

テーマ展「鐺とりどり—技巧と意匠の粋—」展示作品リスト

番号	作品名称	銘	数量	時代	所蔵
<b>打刀鐺の誕生</b>					
1	鉄地勝虫透鐺	「山吉兵」	1枚	室町～江戸時代	個人
2	鉄地花形紋透鐺		1枚	室町～江戸時代初期	本館（井伊家伝来資料）
<b>鐺百姿</b>					
3	赤銅磨地大小鐺		2枚	江戸時代初期	本館（井伊家伝来資料）
4	赤銅地変わり八角形大小鐺		2枚	桃山～江戸時代初期	本館（井伊家伝来資料）
5	鉄地生花透鐺	「江州記内」	1枚	江戸時代初期	本館（小笠原信夫氏寄贈）
6	黒漆塗打刀鞘拵		1腰	江戸時代中期	本館（井伊家伝来資料）
7	赤銅魚子地木瓜形高肉彫橘紋鐺・ 赤銅魚子地喰出形高肉彫橘紋鐺		2枚	桃山時代	本館（井伊家伝来資料）
8	赤銅魚子地色絵橘紋大小鐺	(大)(小)「稲川直克(花押)」	2枚	江戸時代中期	本館（井伊家伝来資料）
9	赤銅魚子地金覆輪色絵橘紋菱形鐺		1枚	江戸時代中～後期	本館（井伊家伝来資料）
10	鉄地菊花形透鐺		1枚	江戸時代	本館（井伊家伝来資料）
11	鉄地扇面透鐺	「武江住正定」	1枚	江戸時代後期	本館（井伊家伝来資料）
12	鉄地鋤出彫色絵鶴透鐺・ 鉄地薄肉彫色絵鶴透鐺		2枚	江戸時代中～後期	本館（井伊家伝来資料）
13	鉄地高肉彫象嵌竹に虎透鐺		1枚	江戸時代中～後期	本館（井伊家伝来資料）
14	鉄地薄肉彫破れ格子に菊花透鐺	「武州住正次作」	1枚	江戸時代中～後期	本館（井伊家伝来資料）
15	四分一地高肉彫葡萄栗鼠・ 枇杷栗鼠透大小鐺	(大)(小)「長州幸登図石黒政常(花押)」	2枚	江戸時代中～後期	本館（井伊家伝来資料）
16	赤銅魚子地高肉彫色絵宇治川先陣図二所物	小柄・筭「後藤光孝(花押)」	1組	江戸時代中期	本館（井伊家伝来資料）
17	赤銅魚子地高肉彫色絵楽器図二所物	(大)小柄・筭「紋程乗 光美(花押)」 (小)小柄・筭「紋簾乗 光晃(花押)」	2組	江戸時代前～中期	本館（井伊家伝来資料）
18	赤銅魚子地金覆輪高肉彫色絵舞楽図鐺・ 赤銅魚子地金覆輪高肉彫色絵武者図鐺		2枚	江戸時代中～後期	本館（井伊家伝来資料）
19	赤銅鍍地金覆輪変わり八角形大小鐺	(大)(小)「埋忠作」	2枚	江戸時代前期	本館（井伊家伝来資料）
20	鉄地鋤出彫象嵌流水に鯉図鐺	「安親」	1枚	江戸時代中期	本館（井伊家伝来資料）
21	赤銅金梨地薄肉彫象嵌松帆の浦図鐺	「大森英秀(花押)」	1枚	江戸時代中期	本館（井伊家伝来資料）

22	赤銅魚子地金銀象嵌毛彫扇面散図鐺	「柳川直政(花押)」 「江府住赤尾吉次」	1枚	江戸時代中期	本館 (井伊家伝来資料)
23	赤銅魚子地薄肉彫七五三縄図鐺	「江川宗義(花押)」	1枚	江戸時代後期	本館 (井伊家伝来資料)
24	真鍮地高肉片切彫色絵象嵌鍾馗図鐺	「利周作」	1枚	江戸時代中～後期	本館 (西尾隆氏・吉田規子氏寄贈)
25	鉄地薄肉彫象嵌水草に源氏車図鐺	「播州明石住埋忠重義」	1枚	江戸時代中期	本館 (井伊家伝来資料)
26	鉄地金覆輪薄肉彫金象嵌山水図鐺	「長州萩住河治六郎右衛門作」	1枚	江戸時代中期	本館 (井伊家伝来資料)
27	鉄地金布目象嵌秋草図鐺	「阿州住勝吉作」	1枚	江戸時代中期	本館 (井伊家伝来資料)
28	鉄石目地薄肉彫金象嵌龍図鐺	「若芝」	1枚	江戸時代中～後期	本館 (井伊家伝来資料)
29	赤銅荒地色絵桐菊紋散図鐺	「一乗門人熊谷義次(花押)」	1枚	江戸時代後期	本館 (井伊家伝来資料)
30	鉄地高肉彫雲龍図鐺	「小杉元次 (花押)」	1枚	江戸時代後期	本館 (井伊家伝来資料)
31	赤銅魚子地金覆輪高肉彫色絵武者合戦図大小鐺	(大)「藻柄子喜多河入道宗典製(花押)」 「江州彦根住」 (小)「藻柄子入道宗典 行年七十三歳製之」 「江州彦根住 喜多川」	2枚	江戸時代中期	本館 (井伊家伝来資料)
32	鉄地金覆輪高肉彫色絵金象嵌十二支図鐺	「藻柄子入道宗典製」 「江州彦根住」	1枚	江戸時代中期	本館 (個人寄贈)
33	鉄地色絵金象嵌竹林七賢人透鐺	「藻柄子入道宗典製」	1枚	江戸時代中～後期	個人
34	鉄地金覆輪色絵唐人物透大小鐺	「藻柄子吉川益胤」 「江州彦根住」	2枚	江戸時代中～後期	本館 (足輕吉川仙之介家伝来資料)
35	鉄地高肉彫金象嵌桐鳳凰透大小鐺	(大)「玄珠子往永作」 「江州彦根住 享和元酉二月」 (小)「玄珠子往永作」 「江州彦根住 享和元歳」	2枚	享和元年 (1801)	個人
36	鉄杳目地四輪違透鐺	「松柏堂砂川正吉 (花押)」	1枚	江戸時代後期	本館 (井伊家伝来資料)
37	赤銅素銅地屈輪彫唐草紋大小鐺	(大)(小)「高橋正次 (花押)」	2枚	江戸時代後期	本館 (井伊家伝来資料)
38	赤銅地毛彫色絵象嵌波に蛸図・波に海獣図昼夜鐺	「井関八左衛門作」	1枚	江戸時代中～後期	本館 (井伊家伝来資料)
39	銀地毛彫色絵銀象嵌波に三日月図鐺	「程乗 月光美 (花押)」	1枚	江戸時代中～後期	本館 (井伊家伝来資料)
40	赤銅地毛彫高肉彫金象嵌波に双龍透鐺	「阿部光国 (花押)」	1枚	江戸時代中～後期	本館 (井伊家伝来資料)
41	銀磨地雪華紋散・金象嵌桜図大小鐺	(大)(小)「鎌田乘壽 (花押)」	2枚	江戸時代後期	本館 (井伊家伝来資料)
42	緋色銅魚子地鋤下彫「行光」字・「長守」字大小鐺		2枚	江戸時代後期	本館 (井伊家伝来資料)

## 写真解説

### 1 鉄地生花透鐔 1枚 (作品リストNO.5)

銘表「江州記内」

直径：8.3cm

江戸時代初期

本館蔵 (小笠原信夫氏寄贈資料)

梅の枝を桶に生けた文様を表した鉄地丸形鐔。地を裏まで彫り抜いて文様を表す、透彫の技法が使われています。梅花は花卉の内側が彫り下げられ、立体的に表されています。梅の枝は緩やかに垂れています。透彫で自然な曲線が表されている点に技術の高さがうかがえます。

銘にある「記内」は、桃山から江戸時代初期に越前国を拠点にした金工師一派です。本作はその初代の作と見られます。初代記内は近江国から越前へ移住したと伝えられ、「江州記内」の銘を持つ本作は、記内が近江で制作していたことを裏付ける重要な資料です。



### 2 赤銅魚子地木瓜形高肉彫 橘紋鐔・ 赤銅魚子地喰出形高肉彫 橘紋鐔 2枚 (作品リストNO.7)

(大) 縦径：7.8cm 横径：7.8cm (小) 縦径：5.4cm 横径：3.6cm

江戸時代前期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

井伊家初代直政 (1561～1602) 所用とされる黒漆塗大小拵に附属する大小の鐔。大の鐔は木瓜形と呼ばれる、鐔の中でも多く見られる形です。小の鐔は喰出形と呼ばれる形で、短刀拵に多く用いられます。大小ともに銅に金や少量の銀を加えた合金である赤銅で作られています。井伊家の家紋である丸に橘紋は、地を彫り下げて浮き出させ、彫り下げた地には魚子と呼ばれる細かな粒状の模様を密に整然と表しています。小の鐔は、橘紋が側面に表されており、丸みのある立体的な場所に彫りを施すという高度な技術が駆使されています。

本作に表される橘紋は、他の井伊家伝来資料の多くに見られる形と異なり、橘の実がふっくらと丸みを帯び、枝も柔らかくカーブしており、家紋が定型化する以前の形を示していると考えられます。



3 <sup>し ぶ い ち じ た か に く ぼ り ぶ だ う り す び わ り す す か し だ い し ょ う つ ば</sup> 四分一地高肉彫葡萄栗鼠・枇杷栗鼠透大小鐺 2枚 (作品リストNO. 15)

銘(大)表「長州幸登図 石黒政常(花押)」

(小)表「長州幸登図 石黒政常(花押)」

(大)直径: 8.2cm (小)直径: 7.6cm

江戸時代中～後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

銅と銀の合金である<sup>し ぶ い ち</sup>四分一を地とし、大<sup>ぶ だ う り す</sup>は葡萄に栗鼠図、小は<sup>び わ</sup>枇杷に栗鼠図を<sup>す か し ぼ り</sup>透彫で表した鐺。高彫、毛彫の技術を用いて写実的に図様を表現しています。彫りの高低差で前後の奥行きを表している点や栗鼠の毛並みを細かな線を刻んで表している点に高い金工技術がうかがえます。

銘から作者と判明する<sup>い し ぐ ろ ま さ つ ね</sup>石黒政常は、江戸時代後期に主に江戸で活躍した<sup>や な が わ</sup>柳川派の門人

人で、本作のような写実的な表現を得意としました。また、銘に「長州幸登図」と記されることから、長州萩藩毛利家お抱えの金工師である、<sup>ゆ き た か</sup>中原幸登の図案を元に作られたことがわかります。



4 <sup>し ゃ く だ う な な こ じ き ん ふ くり た か に く ぼ り い ろ え む し ゃ か つ せ ん ず だ い し ょ う つ ば</sup> 赤銅魚子地金覆輪高肉彫色絵武者合戦図大小鐺 2枚 (作品リストNO. 31)

銘(大)表「藻柄子喜多河入道 宗典製(花押)」裏「江州彦根住」

(小)表「藻柄子入道宗典 行年七十三歳製之」裏「江州彦根住喜多川」

(大)直径: 8.2cm (小)直径: 7.9cm

江戸時代中期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

武者と鬼などの異形の者が戦いを繰り広げている様を表した鐺。高彫の技法で人物等の形態を浮き上がらせ、さらに色絵の技法で金と<sup>す あ か</sup>素銅色の色どりを加えています。人物の表情や動き、馬の動きなどもそれぞれ異なっており、高い金工技術がうかがえます。

銘に記されている<sup>き た が わ そ う へ ん</sup>喜多河宗典は、彦根の中藪に住んだとされる江戸時代中期の金工師です。その鐺は、江戸を中心に全国で人気を博しました。宗典は、高彫で濃密な図を表す作風を得意とし、宗典派の作は彦根彫と呼ばれました。



5 赤銅地毛彫色絵象嵌波に蛸図・波に海獣図昼夜鐺 1枚 (作品リストNO. 38)

銘 波に海獣図面「井関八左衛門作」

縦径：8.7cm 横径：8.1cm

江戸時代中～後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

6 銀地毛彫色絵象嵌波に三日月図鐺 1枚 (作品リストNO. 39)

銘 裏「月光美 (花押) 程乗」

直径：7.0cm

江戸時代中～後期

本館蔵 (井伊家伝来資料)

井伊家12代直亮 (1794～1850) 所用と伝わる大小拵に附属する鐺。大の鐺は一方の面に金色絵地波に蛸図、もう一方の面に赤銅地に波に海獣図を表した鐺です。両面ともに地に毛彫で波を、象嵌で文様を表しています。本作のように鐺の両面を対照的な色使いで表し、両面を表として使用できる意匠のものは、昼夜鐺と呼ばれます。

小の鐺は、銀地で波に三日月図を表しています。大の鐺と同じく毛彫で波を表し、右上に銀象嵌に金色絵を施して月を表しています。

本作が附属する拵は、梅花皮鮫と呼ばれたエイの皮で作られた拵です。同拵の目貫や縁にも魚、舟などの水辺にまつわる意匠が表されており、全体が海にまつわる意匠で統一されています。



5 赤銅地波に海獣図面